



「あほちゃうか？ ということに挑戦したい！」

「ぼくは今日、モルモットになります。皆さん、料理してください」



「大学の研究に対して、企業人の視点でアドバイスをくださいね！」



「魚で人の行動がわかるか？ メダカを擬人化するな！ と言われましたけど・・・」

「こんな動物を飼ってきました。何かわかりますか？」

私たちの研究室で扱ってきた動物たち



自分しか扱うことのできない生き物を使う！

自分が相手にしている材料と
とことん向き合う

その材料でしかできないことがあるはず

「その謎、疑問は本質的なものか？ 自分が本当にやりたいことか？
やる価値のあるものか？ ……恩師の言葉を常に考えています」

「米・英、独、仏、国によって科学についての考え方・文化が異なります」

日本とアメリカの違い

	日本	アメリカ
• 設備	○	
• 労働時間	○	
• 学生	○	
• ラボ間の相互作用		○
• 言葉、政治力		○
• PIのアイデア、能力		○
• 人生の豊かさ		○

当時日本の体内時計研究は世界の後追いと言われていた

↓

欧米の研究者に尊敬される研究を日本から発信した

「アメリカで、PI : Principal Investigator の役割の重要性を実感しました」

Nature, Scienceに発表するために 必要とされること

- 独創性
- 重要性
- 学際性
- わかりやすさ
- 意外性
- エレガンス

「欧米の研究者に尊敬される研究を、ぼくは“日本から”発信したいんです！」
「エレガンス、人にも研究にも必要」「研究は芸術である！！と思ってます・・・」

「科学者に必要なものは、好奇心と感動とチャレンジ！」



「わからないことがあれば専門家に会いに行く。人に会うとどんどん広がって・・・」
「ぼくはわくわくすることをやりたい。本当に価値のあることは、自分でやる！ とことんやる！」

（編集・文責：事務局）